

日语泛读

第二册

高等学校教材

日 语 泛 读

第二册

主 编 王秀文

副主编 李庆祥

外语教学与研究出版社

(京)新登字 155 号

图书在版编目(CIP)数据

日语泛读 第二册/王秀文主编;李庆祥副主编. - 北京:外语教学与研究出版社,2000.9

ISBN 7-5600-1884-X

I. 日… II. ①王… ②李… III. 日语-阅读教学-高等学校-教学参考资料 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2000)第 30817 号

版权所有 翻印必究

日语泛读 第二册

主 编: 王秀文

副主编: 李庆祥

* * *

责任编辑: 黄文明

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com.cn>

印 刷: 北京外国语大学印刷厂

开 本: 850×1168 1/32

印 张: 6.375

字 数: 121 千字

版 次: 2000 年 9 月第 1 版 2000 年 9 月第 1 次印刷

印 数: 1—11000 册

书 号: ISBN 7-5600-1884-X/G·799

定 价: 8.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

修订版说明

本套教材(原书名为《现代日语阅读教程》,共四册,高等教育出版社)自1994年9月陆续出版以来,被国内许多大学日语专业选用,对促进日语教学起到了一定的作用。由于出版量有限,近几年出现了供不应求的现象,故决心重修再版,以满足教学需要。

另外,经过几年的使用,有些文章内容已显过时,同时在使用过程中也发现了一些问题急需修正。故此次重版,我们在保持原来体系的情况下,更换了近三分之一的文章,使内容增强了时代感和可读性。同时,对一些印刷错误及练习中的不当之处做了最大限度的纠正。

尽管如此,书中肯定还会存在一些不尽人意之处,敬请广大师生继续不吝赐教,以便不断修改、完善。

此次修订再版得到了外语教学与研究出版社日语工作室的支持和无私协助,在此表示衷心的感谢。

直接参加本册修订工作的有:大连民族学院教授王秀文、讲师刘俊民以及在该院任教的两位日本籍教师。

编者

1999年岁末

原版编写说明

《现代日语阅读教程》是为适应我国日语教育的发展和日语教学的需要而编写的辅助性教材，主旨在于通过有指导的大量阅读，提高学生阅读理解和外语思维、分析的能力，巩固所学的语言知识，扩大知识面和词汇量，丰富日语语感等，以达到运用日语进行交际的目的。适用于日语专业泛读课、大学日语阅读课和各类日语教学单位的教学，也可供广大自学日语的人员使用。

本套教材分为四册，每册 25 课，供教学单位选择使用。每课由课文、“ことばの説明”、“練習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ”等部分构成。课文选入的文章均系原文，并力避国内其它教材中已出现的文章。文章长度以1,500字左右为起点，渐次增加至3,500字左右，在编排上考虑了难易程度的循序渐进、由浅入深。选材时充分注意了文章的思想性、实用性、知识性、科学性和趣味性，同时也兼顾题材的广泛性和体裁的多样性。为扩大学生的视野和知识面，还有意选用了个别从语法和句子结构角度来看不是太规范的文章。

“ことばの説明”部分，从课文中提出影响阅读、理解的词语 2% 左右，标注日语读音或汉字，并注以中文对应词或解释。对少量意思上一目了然，但发音有些难度的汉语词汇和一般性人名、地名等在课文中标注“振り仮名”。《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》中规定的词汇原则上不予提出。

练习的编写以努力提高学生的理解能力和突出它在教学中的指导性作用为原则。“練習Ⅰ”以词语练习为主，从课文中提出与文章理解密切相关的词语（包括语法现象）5 个左右作为问题，每个问题后设答案若干，以选择的方式进行语义及用法方面

的练习。“練習Ⅱ”以内容练习为主，从课文中提出与文章内容的理解密切相关的问题（包括语法和句法现象）5个左右，结合文章内容在每个问题后设答案若干，供选择练习。“練習Ⅲ”结合文章的主题思想和中心内容提出问题2个左右（本项练习从第一册第15课开始设），供学生从语篇的角度进行思考、分析和概括。“練習Ⅳ”为快速阅读部分，每课选择一篇题材和内容与正文相近的短文为语言材料，并从中提出3个左右的问题以选择的方式供理解练习。短文亦均选用原文，选用标准与课文部分相同。这一部分为教学上的补充内容，在时间要求和教学方法上可作更灵活的处理。

《现代日语阅读教程》1~4册由王秀文（辽宁师范大学）担任主编、李庆祥（山东大学）担任副主编。第二册由王秀文、关春影（辽宁师范大学）、李庆祥编写，在辽宁师范大学任教的高岛康子先生审校了全文。

由于我们经验不足，水平有限，加之时间仓促，错误及不当之处在所难免，欢迎日语界同仁及同学们批评指正。

本套教程第1、2册曾由部分日语专家、教授开会审订，参加审稿会的有（依姓氏笔画为序）：于长敏先生（中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、吉林大学外语学院院长、教授）、尹学义先生（中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、国家教委高等教育出版社编审、教材发展研究所研究员）、刘和民先生（中国日语教学研究会顾问、大连外语学院教授）、刘耀武先生（中国日语教学研究会会长、黑龙江大学外语学院副院长、教授）、胡振平先生（中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、中国日语教学研究会常务理事、洛阳外语学院教授）、徐祖琮先生（中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、日语组副组长、中国大学外语教学研究会副会长、复旦大学教授）。审稿会上，各位专家、教授对本教程给予了充分肯定，并提出了许多宝

贵的意见和建议，对此谨表衷心的感谢。

本教程选用的文章涉及到很多作者，其中很多难以查询、联系。对此，敬请各位作者谅解，同时在此谨表诚挚的谢意。

最后，本教程的编写和出版得到高等教育出版社外文编辑室主任尹学义先生的大力支持和帮助，特表谢忱。

编者

目 録

第一課	年中行事と信仰	1
第二課	大学教育の現状と未来	8
第三課	赤い風船	15
第四課	中立	22
第五課	海外旅行	29
第六課	体を守る皮膚	37
第七課	イモ洗いとムギ拾い	44
第八課	酒樽と人間	51
第九課	学校給食の功罪	58
第十課	日本と外国との交通	66
第十一課	いなむらの火	73
第十二課	日本家屋の特色	80
第十三課	身振り・しぐさ	88
第十四課	財政	97
第十五課	技術者たちの外交	104
第十六課	日本語の歴史	112
第十七課	ビザ	120
第十八課	漫画と科学	128
第十九課	洞爺丸の遭難	137
第二十課	保護色	146
第二十一課	外国人花嫁	154
第二十二課	「生まれ」による差別	162
第二十三課	結婚式	170
第二十四課	会社	179
第二十五課	季節感	187

第一課 年中行事と信仰

十一月十五日は、七五三です。七五三というのは、子供が七歳、五歳、三歳になったのを祝う日です。それで、その年の子供のいるうちでは、子供をつれて、神社へおまいりに行きます。子供たちは、この日のために作ってもらった着物を着て、うれしそうです。親は子供がこの年まで無事に成長したことを神に感謝し、また、これからも、健康でよい子になるようにと願うのです。子供たちは、「千歳あめ」という菓子を買ってもらいます。この菓子は、千年も生きるようにという願いをあらわすものです。

七五三は中国から伝わったもので、むかしは貴族や武士の間でおこなわれていました。それが江戸時代の中ごろから、ひろく一般の人々にもおこなわれるようになりました。女の子は三歳と七歳、男の子は五歳のとき祝うのがふつうですが、地方によっては、ちがうこともあります。ともかく、子供が成長していくことを祝うのです。

日本には、七五三のような風習がたくさんあります。正月の行事、節分、ひなまつり、ひがん、たんごの節句、おぼんなどです。また、クリスマスも近ごろは、日本ふうな行事になりました。このほか、農村では田植え祭りとか、新穀感謝の祭りなどがあり、町では初うま、えびすこうなど商売がうまくゆくようにという商人たちの祭りがあります。また、各地の神社には季節ごとの祭りがあって、まったく一年中休むひもないほどです。

このようなたくさんの行事の中で、七五三のように、日本中どこでも一年に一度きまった日におこなう行事を、年中行事と

言います。

年中行事は、目的はだいたい同じですが、やり方は、所によってずいぶんちがいます。また、東京のような大きな都会では、だんだんおこなわれなくなったり、新しい形にかわってきたりしています。

年中行事には、はじめは、神社や寺に関係の深いものが多かったのですが、現在は、宗教の面から考えると、あまり大きな意味を持っていないものもあります。東京などでは、たいへん形式的になって、七五三でも、神社へ行くからといって、その人たちが神道を信仰しているとはかぎりません。仏教の人もあるのです。また、クリスマスを祝うからといって、みなキリスト教を信じているわけではありません。明治時代になってから、西洋の宗教として、その行事が多くの人々にめずらしがられたからです。クリスマスのほんとうの意味を知らないで、ただ西洋のまねをしている人が多いのです。

このように、日本には、たくさんの宗教があります。第二次世界大戦前までは、一つの宗教だけを熱心に信じている人は別ですが、多くの家には神だたと仏壇とがありました。一つの家で、神道の行事も、仏教の行事もおこなわれていたのです。

仏教が日本にはいつてきたのは6世紀ですが、それ以来仏教は、それまで日本人が持っていた宗教と一つになってしまいました。その上、仏教といっしょに、インドや中国のいろいろな信仰がはいってきて、日本の宗教の中にとけこみました。このようにして日本では、たくさんの神や仏が信じられるようになりました。そして、そのたくさんの神仏は病気をなおす神、商売をさかんにしてくれる仏など、それぞれ独特の役目を持っています。日本人は神や仏を、それぞれの役目によって信仰している場合が多いのです。

[文化庁編:『外国人のための日本語読本』(初級3)による]

ことばの説明

年中行事[ねんじゅうぎょうじ]	一年的传统节日活动, 例行的仪式
おまいり[御参り]	参拜神佛
七五三[しちごさん]	七五三节(男孩 5 岁, 女孩 3 岁、7 岁时在 11 月 15 日举行的庆祝仪式)
千歳あめ[ちとせあめ]	千岁糖(日本小孩过“七五三节”时吃的棒状饴糖)
節分[せつぶん]	立春的前一天(大约在 2 月 3、4 日)
ひなまつり[雛祭り]	女孩节(日本 3 月 3 日陈列偶人, 供白酒、点心、桃花, 祈求女孩幸福的节日活动)
ひがん[彼岸]	春分、秋分前后各 3 天, 一共 7 天时间(在此期间, 人们做法事悼念亡灵)
たんごの節句[端午のせつく]	端午节
おぼん[お盆]	盂兰(盆)会
クリスマス(Christmas)	圣诞节
田植え祭り[たうえまつり]	插秧节
新穀感謝[しんこくかんしゃ]	新谷丰收谢谷神
初うま[はつうま]	(阴历 2 月的第一个午日举行的)稻荷神社的庙会
えびすこう[恵比須講]	(日本阴历 10 月 20 日或正月 10 日、20 日的)祭财神

キリスト教[キリストきょう](Christ)

基督教

神だな[かみ棚]

神龕

仏壇[ぶつだん]

佛龕

練習 I

1. 「ともかく、子供が成長していくことを祝うのです」の「ともかく」の意味として、次のどれがあてはまるか。
 - a. いろいろの事情はあるがひとまず
 - b. 以前から聞いたとおり
 - c. それとは関係なしに
2. 「クリスマスも近ごろは、日本ふうな行事になりました」の「ふう」と同じ意味のものを、次から選びなさい。
 - a. 変なふうをした若者たちが、広場に集まっていた
 - b. 私は何気ないふうを装った
 - c. そこには中世ふうの建築がいっぱいある
3. 「商売がうまくゆくようにという商人たちの祭りがあります」の「ゆく」はどんな意味か。あてはまるものを、次から選びなさい。
 - a. おもむく
 - b. 行われる
 - c. 達する
4. 「その人達が神道を信仰しているとはかぎりません」の「かぎる」の使い方は、意味として次のどれに該当するか。
 - a. そうとは決まっていない
 - b. それだけでなく、ほかの場合もそうだ
 - c. それだけはほかとちがって
5. 「仏教は、それまで日本人が持っていた宗教と一つになってしまいました」の「一つ」と意味の同じものを、次から選

びなさい。

- a. 一つには将来の計画も必要だ
- b. 人間は薄情なもので、昨日までは毎日来た友たちも、今日は門の前を通過してさえ、挨拶一つして行きません
- c. 天気のよい日には、空と海とが一つに見える

練習Ⅱ

1. 「七五三」とはどのようなことか。正しいと思われるのを選びなさい。
 - a. 子供が七歳五歳三歳になったのを祝う日です
 - b. 子供をつれて、神社へおまいりに行く日です
 - c. 子供が千年も生きるといふ願いをあらわすものです
 - d. 子供が成長していくことを祝う日です
2. 「親は子供がこのとしまでぶじに成長したことを神に感謝し、……」の「このとし」はどのとしか。
 - a. 七五三を行うとし
 - b. 子供が七歳五歳三歳になったとし
 - c. 神社へおまいりに行くとし
3. 「年中行事」というのは、どのようなことか。
 - a. 七五三のような風習
 - b. 日本じゅうどこでも一年に一度きまった日におこなう行事
 - c. 神社や寺に関係の深い行事
4. 日本人がクリスマス祝うのは何のためであるか。
 - a. キリスト教を信じているため
 - b. クリスマスの行事が多くの人々にめずらしがられたため
 - c. ただ西洋のまねをしているため

5. 日本人は宗教に対してどんな態度をとっているか。

- a. 各地の神社に季節ごとの祭りがあるように、日本人は神道をとくに信仰している
- b. 日本には宗教がたくさんあるが、日本人は皆一つの宗教だけを熱心に信じている
- c. 日本人は、神や仏をそれぞれの役目によって信じているのが多い

練習Ⅲ

年中行事は宗教とどのような関係を持っているか。本文からぬきだしてまとめなさい。

練習Ⅳ

次の文を読んで後の問いに答えなさい。

お 七 夜

子供が生まれて7日目に名まえをつけてお祝いをします。これを「お七夜^{しちや}」と言います。古くは生まれた子の母方の祖父が名まえをつけることが多かったのですが、親が尊敬している人に頼んで名まえをつけてもらうこともありました。最近は親がきめる場合が多いようです。

「お七夜」には生まれた子の名まえと生年月日を和紙に筆で書いて、自宅の神棚の下か床の間に張ります。

日本人の名をコンピューターを使って調査した資料によると、姓は10万1,733種あり、名まえは15万930種あります。

一番多い姓は「佐藤」で、2位が「鈴木」、3位が「高橋」となっています。男の名まえで一番多いのは「ヒロシ」、2位が「トシオ」、3位が「ヨシオ」となっていますが、「ヨシオ」の漢字による書き方は387種あったそうです。女の名まえでは、1位は「ヨシコ」、2位は「ケイコ」、3位は「カズコ」ということです。姓の地域的分布をみると、「佐藤」は東北・北海道・関東に多く、「鈴木」は関東に多いそうです。また、「高橋」は東日本から中国・四国にかけて分布しています。

問1.「お七夜」とはどのようなことか。

- a. 子供が生まれること
- b. 子供が生まれて7日目に名まえをつけること
- c. 子供が生まれて7日目に名まえをつけてお祝いをする
こと

問2. 昔、子供に名をつけるのはたいていどの人がやったのか。

- a. 生まれた子の母方の祖父
- b. 生まれた子の親が尊敬している人
- c. 生まれた子の親

問3. 日本人の姓の地域的分布を見ると、分布の広い姓はどれか。

- a. 佐藤
- b. 鈴木
- c. 高橋

第二課 大学教育の現状と未来

戦後、日本の高等教育は量的拡大の一途をたどってきた。とくに昭和40年代以降の高度経済成長に歩調を合わせるようにして、短期大学を含めた高等教育機関への進学率は増加し、平成4年には38.9%となっている。また、専修学校や専門学校への進学者を合わせると、高等学校卒業者の6割近く（57.2%）が、中等教育段階以後（post-secondary）の教育機関に進学している。

このような量的拡大の一方で、18歳人口の急減が見込まれることや大学に対する国民の要求が多様化したことなどにより、大学教育を取り巻く状況は大きく変化してきている。かつてよく使われた「駅弁大学」ということばに象徴されるように、比較的小規模の地方都市にも大学ができ、大学教育の大衆化が促進されたが、大学を取り巻く社会の変化は、大衆化した大学教育の「質」を見直すことを大学に迫りはじめたということができる。とくに、18歳人口の急減期を迎え、大学の入学定員の削減が企図されている今、大学は自らの生き残りの道を模索している。

大学設置基準の大綱化

18歳人口の減少により、西暦2000（平成12）年には大学・短期大学・高等専門学校への入学者数は、60万人台にまで落ち込む（92年は81万人）と試算されている。このような状況を受けて、大学審議会は91年に大学改革の方向を打ち出したが、その柱の一つが「大学設置基準の大綱化」である。これまで日本の大学教師は「象牙の塔」にこもる研究者という自己意識や

ヨーロッパの講壇学者のイメージのもとに、大学教師は、自己の「研究成果」を講ずればそれが「教育」をすることであると考へ、教育効果や学生の要求などには目を向けない傾向があった。このような大学教育の「ひとりよがり」に警鐘を鳴らし、大学の教育機能の強化をねらったのが「大学設置基準の大綱化」である。

大学設置基準の改定により、授業科目の区分と各科目区分ごとの最低履修単位数が廃止され、授業の方法別（講義、演習、実験・実習、実技など）に一律に定められていた単位の計算方法も、各大学の判断により弾力的に規定できるようになった。これにより、各大学は、自らの教育理念と教育目標に照らして、教養教育と専門教育について独自の教育課程を編成する可能性が開かれた。

しかし、教養教育と専門教育の調和は容易ではない。日本の大学は、教育研究体制の面でも、教師の意識の面でも、学部段階での専門的技術者養成という性格と、学部はりべルアーツ中心で専門教育は大学院でという米国型の大学教育の性格とが混在しているため、教養教育担当者と専門教育担当者の中で軋轢が起りやすい。現在全国の国立大学で進行している「教養部」の廃止や改組は、そのような日本の大学教育が抱える問題を露呈させる契機となっている。たしかに、従来の「一般教育科目等」による教養教育は、教育内容の水準、マスプロ化、教師側の意欲の低さなどと相まって、学生の評判も悪く、そのため全国の大学における教育課程の再編においては、教養教育の圧縮、低学年次への専門教育の導入という傾向が顕著に見られる。

大学教育の評価・点検

日本の大学は「入るのは難しいが、卒業は簡単だ」と言われ